9月10日

ナムグムダム (Namngum Dam)

訪問先都市	ビエンチャン
面会者	Mr. Somchay Sichanthalath, Deputy Director
コメント	日本の支援を受けて建設されたダム。このダムでの水力発電がラオス国内電力の主要供給源である。余った電力をタイなどの近隣国に輸出することで外貨取得源ともなっている。まず、ダムについての説明を聞いた後、施設全体を見学した。日本がラオスに対して行ってきた支援や、ダム職員による環境保護活動についての理解を深めた。日本の海外支援について知らないことが多いということと、開発に伴う自然破壊問題について再確認した。

塩田（バンボービェンテン村）(Salt farm: Ban Bor Vienthaine Province)

訪問先都市	ビエンチャン
面会者	Mr. Soulideth Sihapanya
コメント	この村の塩田では、10家族が働いて塩を製造している。太古の昔、この地域は海であったため、この村の地下水には塩分が含まれる。この地下水を蒸発させることで塩が製造される。内陸国であるラオスでは、慢性的なヨウ素不足を防ぐため(ヨウ素不足は甲状腺がんの要因ともなる)、食塩にヨウ素を含有させることが法律で定められている。この塩田で製造された塩はラオスの人々の健康にとても重要な役割を果たしている。竹の編み物に詰められた塩をひとつまみ舐めると、とてもマイルドな味がしたり、すこし塩辛かったりして、団員全員で、各工程ごとに異なる塩の味を楽しんだ。製造は手作業で行われており、力仕事も多い。ラオス農家の副業を知ることで、ラオス農村部における生活の一端を垣間見ることができた。

9月11日

国際青年育成交流事業既参加青年及び日本招へいラオス青年との交流 (Interaction with Lao youth；ex-PY of INDEX and youth to be invited to Japan)

訪問先都市	ビエンチャン
コメント	一人一人が自己紹介を行った後、既参加青年からラオスの概要についてプレゼンテーションを聞いた。その後は自由に懇談を行い、ショッピングモールで昼食を共にした。時間の経過とともにラオス青年とも打ち解け、より個人レベルでの友好を深めることができた。

ワット・ホーパケオ (Wat Ho Phra Keo)

訪問先都市	ビエンチャン
コメント	1563年にセタティラート王によって建立されたかつての仏教寺院で、現在は国内各地から仏像を集めた博物館となっている。寺院ではガイドから話を聞き、ワット・ホーパケオの歴史的な価値を認識した。

ワット・シーサケット (Wat Sisaket)

訪問先都市	ビエンチャン
コメント	ランサーン王国時代に建設されたビエンチャン最古の寺院。ランサーン王国が分裂したのちシャムの侵略によってたくさんの建築物が破壊された中、建立された当時の姿を保っている唯一の歴史的建造物。現在は博物館となっており、本堂内部や周囲の回廊に7,000体を超える仏像が展示されている。ラオス青年たちと寺院を視察し、ラオスの人々が仏教に対して深い信仰心を持つことがわかった。

タート・ルアン（That Luang）

訪問先都市	ビエンチャン
コメント	ラオス仏教の最高の寺院であり、ラオスの象徴ともいえる。ブッダの遺物が塔内に残っているとも言われ、ラオスの有名観光地の一つとなっている。四方を壁に囲まれており、その回廊から荘厳な外観を楽しんだ。

ラオス青年同盟スタッフとの夕食会（Dinner with Lao Youth Union staff）

訪問先都市	ビエンチャン
面会者	Ms. Keooudone Sengmanivong, Deputy Permanent Secretary
コメント	Kualao restaurantにて、Keooudone Sengmanivong氏と会食を行った。レストランの食事がルアンパバーン料理であったことから、以後訪問するルアンパバーンの文化や産業など詳しい説明を受けた。Sengmanivong氏は何度も来日されているそうで、日本の文化についてもよく理解され、まだラオスにやってきて間もない私たちに、日本とラオスの食文化の違いを教えてくれた。私たちはフォークやスプーンを使ってもち米を食べていたが、この日以来、現地のラオス人同様に手で食べるようになった。

9月12日

ラオス人民革命青年同盟表敬訪問（Courtesy call on Lao People's Revolutionary Youth Union）

訪問先都市	ビエンチャン
面会者	Dr. Khampha Phimmasone, Secretary General Ms. Phoumalayphone Yokxaiyakham, Technical Staff of International Relations Division
コメント	ラオス人民革命青年同盟とは、ラオス人民革命党の下部組織で「青年の健全な教育と職業訓練により健全で善良な人格を形成すること」を目標としている。ビエンチャン本部を表敬訪問し、ラオス青年同盟の組織や取組について積極的に質問した。また、これからのラオスの未来を担う青年たちの姿を見て刺激を受けた。

ワット・シームアン（Wat Simuang）

訪問先都市	ビエンチャン
コメント	ラオスで最も有名なセーターティラート王の建立と伝えられる寺院であり、ビエンチャンでは最も多くの参拝者を集めている。寺院が建立される際、シーという妊婦が人身御供として自ら支柱の穴に飛び込み、守り神になったという伝説があるため、女性の参拝客が多い。寺院には変わったデザインの像が多くあり、団員の皆で写真撮影なども楽しんだ。寺院内にいる僧侶に願掛けをしてもらったが、その仕方も日本とは異なり、同じ仏教でも上座部仏教と日本の大乗仏教とは大きく異なると感じた。

9月13日

ルアンパバーン県副知事表敬訪問（Courtesy call on Luang Phabang Vice-Governor）

訪問先都市	ルアンパバーン
面会者	Mr. Vongsavanh Thepphachanh, Vice-Govenor
コメント	ルアンパバーンは市街地自体が文化遺産としてユネスコの世界遺産に登録されている。ルアンパバーン県副知事は、ルアンパバーンがここ10年で急激な発展を遂げて観光名所となったこと、ASEAN加盟国の首脳陣と会談するため米国大統領オバマ氏が初めてルアンパバーンを訪問したことについて触れ、私たちの訪問も日本とラオスをつなぐ良い機会だと歓迎してくださった。一方で、観光地化することでラオスの伝統的な暮らしに悪影響が及ばないか懸念していることがわかった。今後は学生が専門的な分野で学べるよう、ルアンパバーンの教育制度を変えていきたいとおっしゃっていた。

伝統芸能民族センターによる講義（Lecture by Traditional Arts and Ethnology Centre）

訪問先都市	ルアンパバーン
面　会　者	Ms. Tara Gujadhur, Co-Director 落合雪野　龍谷大学農学部食料農業システム学科教授
コメント	ラオスは49の民族が存在する多民族国家であり、タイやベトナムよりその数は多く、人口の約半数が少数民族である。民族は言語、所在地、伝統的習慣、宗教、服装で区別され、それぞれの特徴について学んだ。また各民族の女性は得意とするハンドメイド製品があり、商品として販売することで家計の一助になっている。例えば、綿を作り藍染をする民族、竹の籠を作る民族、アクセサリーを作る民族が存在する。今では学校教育を受ける女性が増えているため、技術を持つ女性が減り、伝統芸術の維持が危ぶまれていることを学んだ。また、ルアンパバーンは絹織物が有名だが、他国からの安い輸入品が増えているため、それらと区別をつけるため、ハンドメイドを示したステッカーを貼る運動によって文化維持に努めていることがわかった。

サーンコーン村（Xangkhong Village）

訪問先都市	ルアンパバーン
コメント	機織りをするグループと紙漉きをするグループに分かれ、それぞれ機織りと紙漉きを体験した。言語の壁がありながらも教えてくださる女性の方々とボディーランゲージを通して意思疎通を図りながら作成した。機織りによる布、紙漉きによる紙を使った紙袋などが販売されており、伝統工芸が商業化されている様子が印象に残った。村を離れる際には指導してくださった方々と家族のような雰囲気の中、記念撮影を行った。

ラオス青年同盟ルアンパバーン支部スタッフとの夕食会（Dinner with staff from Lao Youth Union of Luang Phabang）

訪問先都市	ルアンパバーン
面　会　者	Mr. Ounkham Souvanhnaphan, Central Executive Committee Mr. Xaynakhonh Soutthida, Deputy Secretary
コメント	ルアンパバーン支部のラオス青年同盟の方々と懇談をしながらルアンパバーン料理を楽しんだ。私たちはラオスの代表歌である「チャンパーの花」と、日本や諸外国でも人気のあるキロロの「ベストフレンド」を歌い、熱烈な歓迎に感謝の意を示した。ラオス語を積極的に使うことで青年同盟の方との距離が急速に縮まり、異文化交流をするうえで相手の言語を学ぶことの大切さを改めて感じた。ラオスの方は、重役の方であっても大変気さくに話してくださり、日本人もラオス人も皆心から夕食会を楽しんでいるようだった。

9月14日

スパヌボン大学（Souphanouvong University）

訪問先都市	ルアンパバーン
面　会　者	Mr. Vixay Chansavang, Vice President for Academic Affairs
コメント	スパヌボン大学はルアンパバーン唯一の大学である。2003年に教員養成のために設立され、現在は教育、建築、農学、工学、経済、言語の6学部を持つ。Vixay Chansavang副学長から大学について説明を受けた後、各学部から選ばれた英語の話せる学生たちと交流し、キャンパスツアーや昼食を共にした。この地域に住む人々の暮らしや教育の実情について知る良い機会となった。

プーシー（Phousi）

訪問先都市	ルアンパバーン
コメント	ルアンパバーン市内を一望できる小高い丘。頂上までは328段の階段を上る必要があり、息があがった。見晴らしは大変良く、世界遺産であるルアンパバーンの町並みを見ることができ、寺院が多いことがわかった。上りと下りでルートが異なり、上りは階段を黙々と上ったが、下りはプーシーに住んでいる少年の僧と話をしたり、数々の仏像を見学しながら下った。